

株主の皆様へ

FUJI NIHON SEITO CORPORATION

第 **95** 期
事業報告書

2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日

 **フジ日本精糖株式会社**

証券コード：2114





代表取締役社長
櫻田 誠司

代表取締役会長
船越 義和

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第95期の事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、東アジアでの地政学リスクやトランプ政権が引き起こす混乱の影響などを受けましたが、継続した日銀の金融緩和策等により、緩やかな景気回復基調を示しています。

かかる状況下、当社主力の精糖事業では、少子高齢化および加糖調製品の輸入増や他甘味料の消費増等による消費漸減傾向に変わりはなく、販売数量の減少が続いています。現3カ年計画の2年目となる当連結会計年度では、従来からのベース事業を確実に維持しながら、新規事業の育成に努めてきた結果、グループとして増収・増益を確保することができました。8月には液糖の生産を清水工場より共同生産工場の太平洋製糖株式会社に移管し、同時に清水工場でのイヌリンの生産も終了し、タイ工場に移管いたしました。これにより予定していた生産の効率化は、ほぼ完了いたしました。

機能性素材事業（イヌリン）につきましても、タイ工場での生産が安定化し、東南アジア諸国への輸出も始めています。また、日本国内では、整腸作用、血中中性脂肪低減効果、食後の血糖値上昇抑制効果の3つの機能が認められ、ユーザー様よりの引き合いが活発化しています。新たに始めたタイ国での製パン事業も、生産が安定化し、タイ国の大手流通各社に販売が増えています。連結子会社ユニテックフーズ株式会社では、主要取扱品目の販売増に加え、新規事業も軌道にのってきております。その他切花活力剤事業、フードサイエンス事業、不動産事業も安定しており、グループにおける精糖事業の占める割合はだいぶ下がってきておりますが、まだ目標には至っていません。今後の課題となります。

さて、私儀、6期6年の間社長を務めさせて頂きましたが、2018年6月20日の定時株主総会終了後の取締役会において会長に就任し、櫻田誠司取締役が社長に就任いたしました。社長在任中におきましては、精糖事業に次ぐ事業を育て上げるために事業の多角化、海外進出を進めてきました。だいぶ基礎ができ上がってきたと思っておりますが、まだ少し時間がかかりそうです。新社長には、事業の安定化とさらなる多角化を託したいと思っております。

株主の皆様におかれましては、引き続き新社長へのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年6月

代表取締役会長 船越 義和

堅実な経営を引き継ぎ、未来への変革を進めていきます。

代表取締役社長 櫻田 誠司

Q 社長就任にあたり、今の想いをお聞かせください。

A さらに事業成長に向けて邁進し、持続的成長への基盤を築き上げてまいります。

私は、1985年に日商岩井株式会社（現・双日株式会社）に入社して食料部門の配属となり、ほぼ一貫して砂糖の担当を務めながら、経験を積ませていただきました。フジ日本精糖株式会社は、入社当時から取引先として長年にわたり深く関わり続けてきた会社です。当社に2013年に入社してからは、砂糖を離れて機能性素材部門を担当してきました。

当社は、国内の砂糖供給を支える製造販売会社として長い歴史を持ち、堅実な経営のもと今日まで発展し続けてきました。いま述べました通り、私自身が昔からお世話になってきた会社であり、その経営の舵取りを引き継ぐ光栄を胸に、緊張感をもってさらなる事業成長に向けて邁進し、恩返しをしていきたいと考えています。

これまで当社が本業としてきた精糖事業は、砂糖消費量が減少傾向にある中で、今後は制度改革も進み、大きな曲がり角を迎えていくものと思われまます。当社はそうした変化に対応し、精糖事業の足腰をより強くして商権を維持しつつ、機能性素材事業を中心とする非砂糖分野の育成に注力し、持続的成長への基盤を築き上げていかなくてはなりません。代表取締役社長を拝命した私のミッションとして、これを実行してまいります。

Q 当期（2018年3月期）の営業状況をご説明願います。

A 機能性素材事業の好調が増収を牽引し、期初の計画を上回る増益を果しました。

当期の連結業績は、売上高198億4千6百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益9億2千9百万円（同49.8%増）、経常利益12億2千5百万円（同43.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益7億9千3百万円（同11.2%増）と増収・増益

を果たし、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益については、期初の計画を上回る成果となりました。

主力の精糖事業は、夏場における飲料向け販売の伸び悩みを受け、前年同期の売上高を下回りましたが、効率的な原料調達に功を奏したこと、また生産集約による効果が下半期より具現化したことなどから、増益となりました。

機能性素材事業は、国内における「イヌリン」の販売が大幅に伸び、これが全体の増収を牽引しました。2017年6月に「イヌリン」の整腸作用に関する機能性表示申請が受理されたことに続き、同年11月には血中中性脂肪低減効果および食後の血糖値上昇抑制効果についても受理され、低糖質ブームの中、新規採用の拡大につながっています。「イヌリン」については、当期中に国内生産を中止し、全てタイ工場に移管し、これによりタイ工場の稼働率が改善しました。

その他の機能性素材では、切花活力剤が新規販売チャネルの開拓により堅調に推移し、連結子会社ユニテックフーズ株式会社も、介護食向けのゼラチン販売やビタミンのOEM事業が伸び、売上を拡大しました。

以上の結果、機能性素材事業は、前年同期比12.0%増の売上高を確保し、利益の黒字回復を果たしました。

Q タイ国での事業は今後どのように展開していきますか？

A 「イヌリン」事業およびパンの製造販売事業の現地拡販と周辺国展開を進めていきます。

当社は、タイ国の連結子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd.を2016年12月に完全子会社化し、製販一体によるスピーディーな事業展開に向けた体制を構築しました。これにより当期は、前述の通り「イヌリン」の生産を全てタイ工場に移管し、工場の稼働率を高めるとともに、「イヌリン」の現地販売を本格化すべく、品質改善と営業力の強化に取り組んできました。

現在、タイ国内における「イヌリン」の拡販状況は、食品素材展示会への出展やメーカーの研究開発部門へのアプローチを通じて、徐々に手応えが感じられるようになってきているところだ。同時にタイ周辺国への「イヌリン」拡販を目指し、インドネシア、マレーシア、フィリピン、台湾、ベトナム、オーストラリアへの売り込みも進めています。これらの取り組みを成果につなげ、「イヌリン」事業の黒字化を早期に実現していきます。

一方、タイ国における新規事業として立ち上げたパンの製造販売事業は、2016年の販売開始から2年を経過し、現地の主な大手量販店・コンビニエンスストア向けに販売できるようになりました。また、タイ周辺国への輸出も開始しています。

今後は、より現地消費者の嗜好に合わせてパンのテイストを改良しつつ、販売品目数を増やしていくことでシェア拡大を図ります。

Q 次期（2019年3月期）の見通しはいかがですか？

A 中期経営計画の最終年度として、増収・増益による目標達成を見込んでいます。

2019年3月期は、現在推進中の3カ年中期経営計画の最終年度となります。本計画では「成長を目指した基礎固めと新規事業のさらなる育成」をテーマに掲げ、「収益力の向上」

「事業の多角化の展開」「海外展開へのさらなる挑戦」「企業がバナンスの強化と社内体制の充実」「人財の育成・確保」の5つの基本戦略を遂行しています。

計画最終年度の連結業績目標として設定した「売上高205億円」「営業利益9.5億円」「経常利益11億円」「親会社株主に帰属する当期純利益7億円」「ROE4.3%」については、すでに当期において利益・ROE目標を前倒しで達成しており、残る売上高目標についても達成可能圏内にあるとみています。

営業状況の展望として、精糖事業においては、世界的に砂糖の需給が緩んでいることから、販売価格の下落が予想されますが、「量を追い求めるよりも質を高めること」を重視し、取引先との良好な関係を保持し、収益性の向上につなげていきたいと考えております。生産移管による利益改善効果についても、次期は通年での寄与が見込めます。

機能性素材事業においては、引き続き「イヌリン」の日本国内における販売の伸長が期待できる状況です。既存の採用先での販売増と新規採用先の獲得により、売上高の拡大を見込んでいます。またユニテックフーズ株式会社についても、業績のプラス成長を維持する見通しです。

以上を前提に、次期の連結業績は、売上高205億円（当期比3.3%増）、営業利益10億円（同7.6%増）、経常利益12億5千万円（同2.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益8億2千万円（同3.3%増）を予想しています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 堅調な業績を反映して期末配当を予定より増額し、1株当たり11円を実施しました。

今回の期末配当は、堅調な業績を反映して当初の予定より1円増額し、1株当たり11円とさせていただきます。前期は、記念配当1円を含む1株当たり11円を実施しましたので、普通配当において1円増配となります。今後の利益還元については、成長投資等への内部留保を確保しつつ安定配当を継続し、さらなる配当の充実に向けて一層の業績向上に努めてまいります。

当社株式を保有していただいている株主様の数は、この1年で増加し、当事業に多くのご関心とご期待が寄せられていると感じております。当社はそのご支援に報いるべく、事業の持続的な成長を実現し、企業価値をさらに高め続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも当社事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

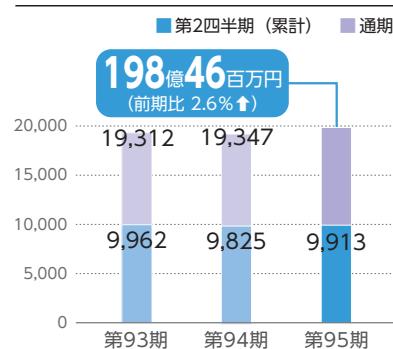


略歴 昭和60年4月 日商岩井株式会社（現双日㈱）入社
平成20年8月 双日株式会社食料部食料担当部長
平成25年4月 フジ日本精糖株式会社 執行役員
平成26年6月 同社 取締役常務執行役員
平成29年6月 同社 取締役専務執行役員
平成30年6月 同社 代表取締役社長（現任）

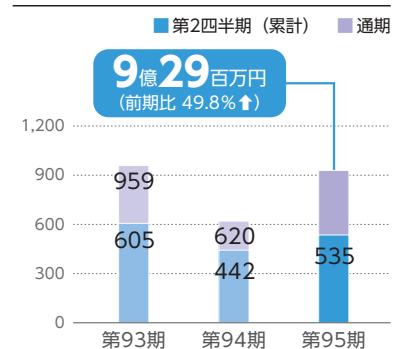
連結業績ハイライト

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

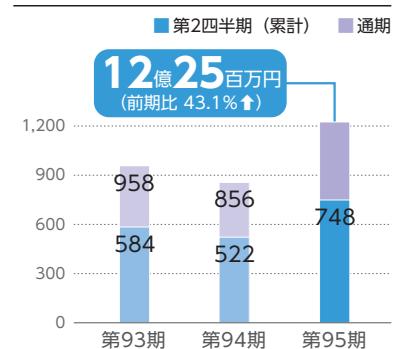
売上高 単位：百万円



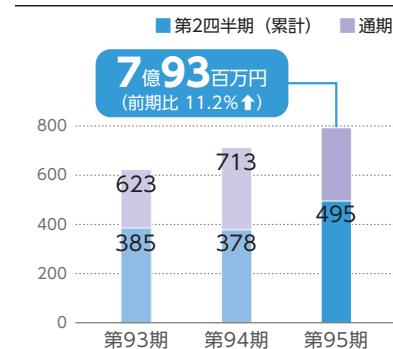
営業利益 単位：百万円



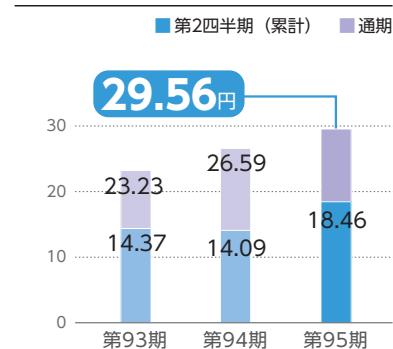
経常利益 単位：百万円



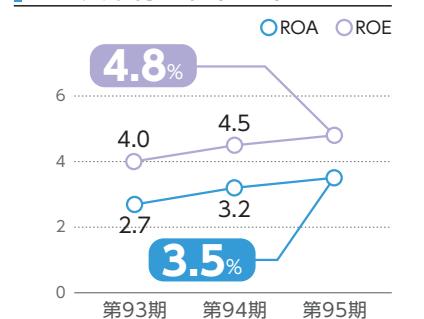
親会社株主に帰属する当期純利益 単位：百万円



1株当たり当期純利益 単位：円



総資産利益率 (ROA) 自己資本利益率 (ROE) 単位：%





精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。

当期の概況

売上高：11,932百万円
営業利益：1,235百万円

精糖事業につきましては、海外原糖市況は期初ニューヨーク先物市場16.93セント（1ポンド当たり）で始まりましたが、世界の砂糖需給が3年ぶりに供給過剰に転じたことから、夏場にかけて続落し、13セントを割り込みました。その後、原油高に伴い、世界最大の輸出国であるブラジルで、砂糖からエタノールへの生産シフトが進み、目先の需給が逼迫するとの観測から14セント台まで回復しましたが、年明けに主要生産国での増産が確実視され始め、再び13セント割れとなり、12.35セントにて期末を迎えました。

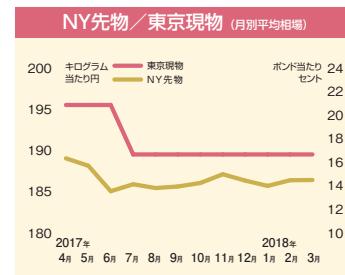
ニューヨーク市場先物相場（セント/ポンド当たり）の動き

期初	高値	安値	期末	平均
16.93	17.18	12.18	12.35	14.27

一方、国内製品市況は期初東京現物相場195円～196円（日本経済新聞掲載）で始まり、海外原糖相場の下落により7月に製品出荷価格を6円引き下げ、189円～190円で期末を迎えました。

製品の荷動きについては、菓子関係は好調だったものの、飲料はじめ全体的な消費の落ち込みにより、販売数量は前年同期を下回りました。しかしながら、液糖生産の集約を図り、生産効率を高めたことなどもあり、営業利益は増益となりました。

この結果、売上高は11,932百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益は1,235百万円（同6.8%増）の減収・増益となりました。



不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

当期の概況

売上高：613百万円
営業利益：549百万円

不動産事業につきましては、売上高は613百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は549百万円（同2.7%増）の増収・増益となりました。



機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

当期の概況

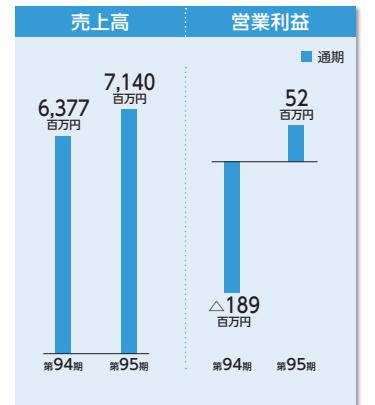
売上高：7,140百万円
営業利益：52百万円

機能性素材事業につきましては、機能性食品素材「イヌリン」は、低糖質素材としての評価が定着してきたことに加え、整腸作用、血中中性脂肪の低減効果、食後の血糖値の上昇抑制効果に関する機能性表示申請が受理され、その効果が認められてきた結果、大手ユーザー向け製菓・製パン分野や機能性飲料に新規採用され販売数量は増加しました。海外においては、9月にタイ国で開催された食品素材展示会「Fi-Asia2017」に出展するなど、タイ国および周辺アジア・オセアニア諸国における拡販を本格化しました。また、タイ国の連結子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.は品質の安定化が図られ、販売数量が増加したことにより、採算性が改善しました。

切花活力剤部門では、切花活力剤「キープ・フラワー」において天候不順の影響により夏場の販売が伸び悩みましたが、量販店の売り場やギフト・通販市場の開拓に着手した結果、増収・増益となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社におきましては、主力商品であるゼラチンの販売が回復した結果、増収・増益となりました。

これらの結果、売上高は7,140百万円（前年同期比12.0%増）、営業利益は52百万円（前年同期 営業損失189百万円）の増収・増益となりました。



その他食品事業

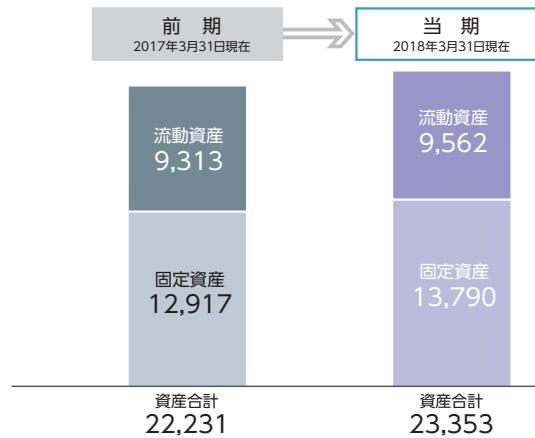
事業内容：タイ国においてパンの製造販売を行っております。

その他食品事業につきましては、DAY PLUS (THAILAND) CO.,Ltd.の製パン事業ですが、売上高は159百万円（前年同期比36.9%増）、営業損失は127百万円（前年同期 営業損失117百万円）の増収・減益となりました。

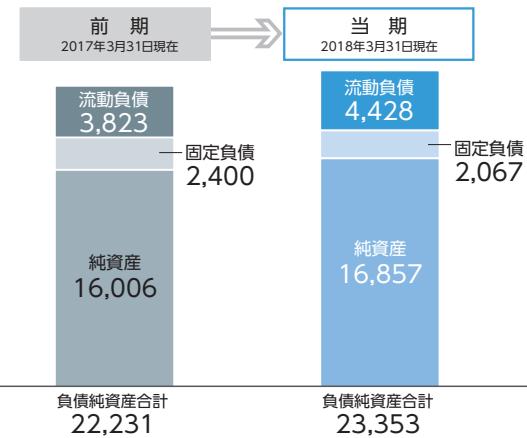


連結貸借対照表

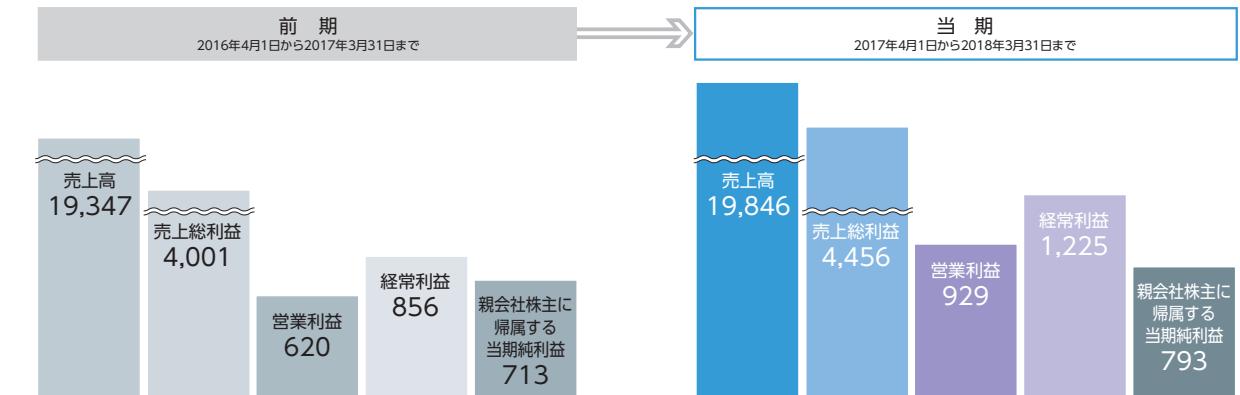
● 資産の部 (単位: 百万円)



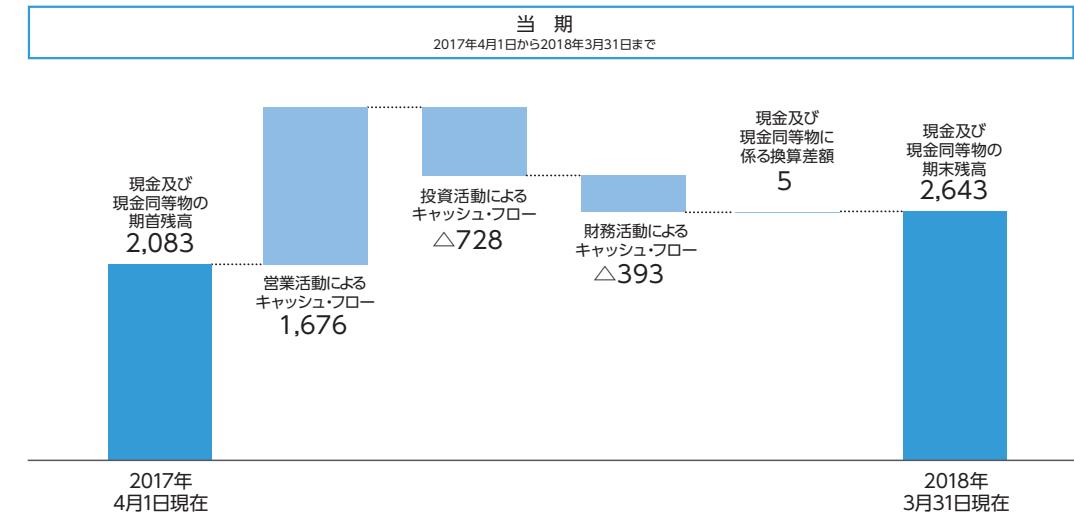
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ2.7%増加し、9,562百万円となりました。これは主に現金および預金の増加等によるものであります。

また、固定資産は前期末に比べ6.8%増加し、13,790百万円となりました。これは主に土地および投資有価証券の増加等によるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ15.8%増加し、4,428百万円となりました。これは

主に短期借入金の増加等によるものであります。

また、固定負債は前期末に比べ13.9%減少し、2,067百万円となりました。これは主に長期借入金の減少等によるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ5.3%増加し、16,857百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の増加および親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年) 7月
資本金	1,524百万円
従業員数	62名
本社所在地	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd.
関連会社	太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社

役員 (2018年6月20日現在)

代表取締役会長	船越 義和
代表取締役社長	櫻田 誠司
取締役専務執行役員	櫻田 礎久
取締役執行役員	木船 亨
取締役	村上 光廣
取締役	前田 馨
常勤監査役	福田 弘
監査役	上平 徹
監査役	菊地 正男
監査役	東 順一郎

執行役員

上席執行役員	小島 康克
執行役員	大口 真央
執行役員	関根 郁也
執行役員	和田 正
執行役員	吉水 あつ子

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

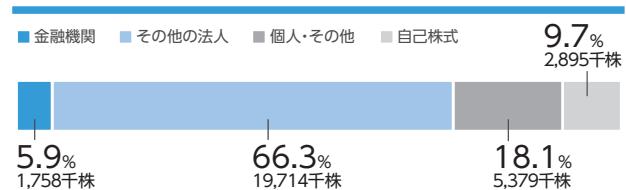
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	14,167名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
豊田通商(株)	2,459	9.2
鈴与(株)	1,902	7.1
和田製糖(株)	1,193	4.4
(株)静岡銀行	792	3.0
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7

(注) 持株比率は自己株式(2,895千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



比較チャート (2017年4月1日を基準日とした当社株価と日経平均株価の騰落率)



イヌリンの新たな機能性表示が受理されました

2017年6月に、機能性関与成分である「イヌリン」の「整腸作用」に関する機能性表示が受理されましたが、同年11月には、さらに「血中中性脂肪を下げる」「食後の血糖値の上昇をゆるやかにする」の2つのヘルスクレームについて機能性表示食品の届出を行い、消費者庁に受理されました。「イヌリン」は水溶性食物繊維の一種で、腸内において善玉菌であるビフィズス菌を増やし、腸内フローラを良好に保つことでおなかの調子を整えることが知られていますが、加えて、血中中性脂肪を下げ、食後の血糖値の上昇をゆるやかにすることが報告されています。今後「イヌリン」は機能性食品素材として、整腸作用の訴求に加え、血中中性脂肪低減と食後の血糖値上昇抑制を謳うことができ、健康訴求への幅を拡げ、市場を拡大したいと考えています。



機能性表示食品に関する基本情報

届 出 番 号・・・C240

商 品 名・・・イヌリンバランス

機 能 性 関 与 成 分・・・イヌリン

表示しようとする機能・・・本品にはイヌリンが含まれています。イヌリンは血中中性脂肪を下げるということが報告されています。また、イヌリンは食後の血糖値の上昇をゆるやかにすることが報告されています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
基準日	3月31日 なお、中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場取引所	東京証券取引所
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載URL http://www.fnsugar.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田 和人が撮影した作品です。



撮影地 - 山梨県 精進湖 - 「梅雨間の開景」

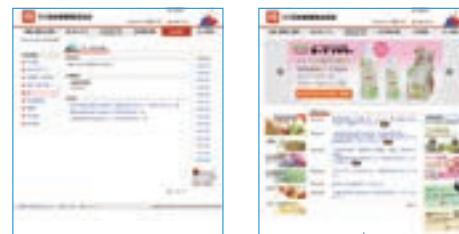
株主優待について

毎年3月31日現在で当社株式をご所有の株主の皆様には、所有株式数に応じた自社製品詰合せを、毎年6月に贈呈いたします。

100株以上	1,000円相当の自社製品
1,000株以上	3,000円相当の自社製品

ホームページのご案内

当社ホームページでは、IR情報や商品情報など様々な情報をご覧いただけます。また、ネットショッピングもお楽しみいただけます。



フジ日本精糖

検索

<http://www.fnsugar.co.jp/>

フジ日本精糖株式会社

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号
TEL : 03-3667-7811 <http://www.fnsugar.co.jp/>

**UD
FONT**

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。